

A map of the Tohoku region in Japan, outlined in blue. The map is overlaid with various images representing economic activities: a cluster of red apples in the north, a busy street scene with buildings in the center, a traditional Japanese shrine building in the east, and a large traditional Japanese castle in the south.

# 最近の東北財務局管内の経済情勢等

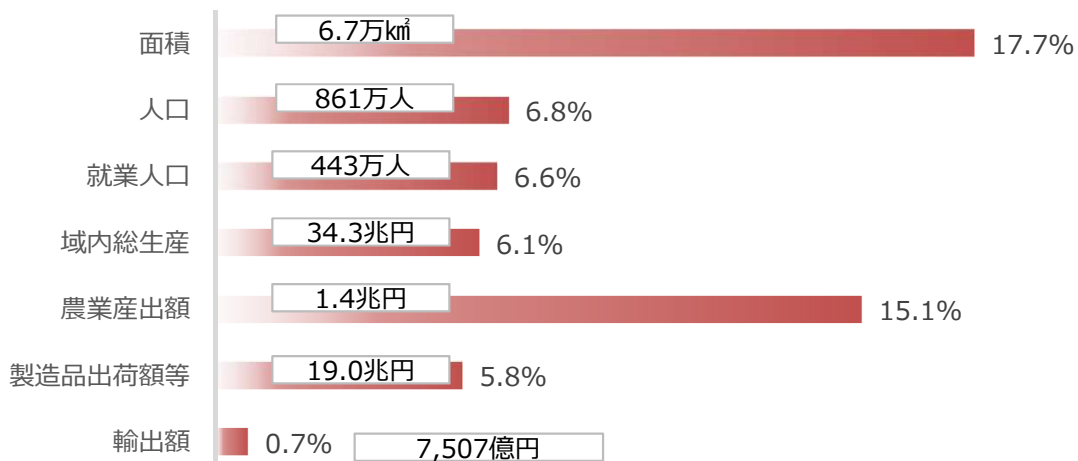
I. 東北財務局管内経済構造

II. 最近の東北財務局管内の経済情勢

令和6年8月  
東北財務局

# I. 東北財務局管内経済構造

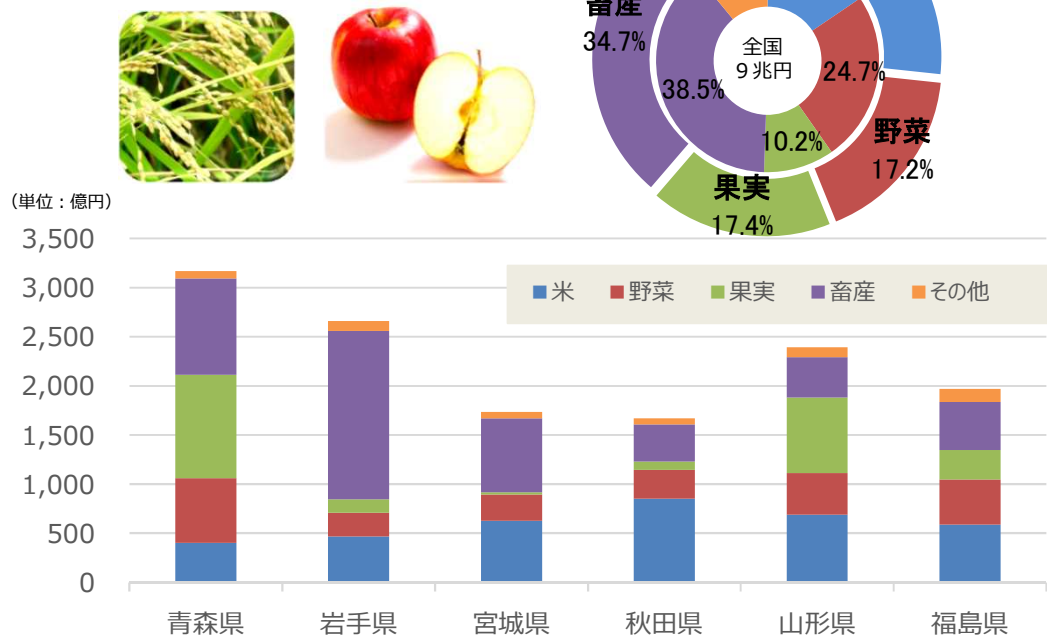
## (1) 経済規模等 (全国ウエイト)



【出所】国土地理院、総務省、内閣府、農林水産省、経済産業省、財務省

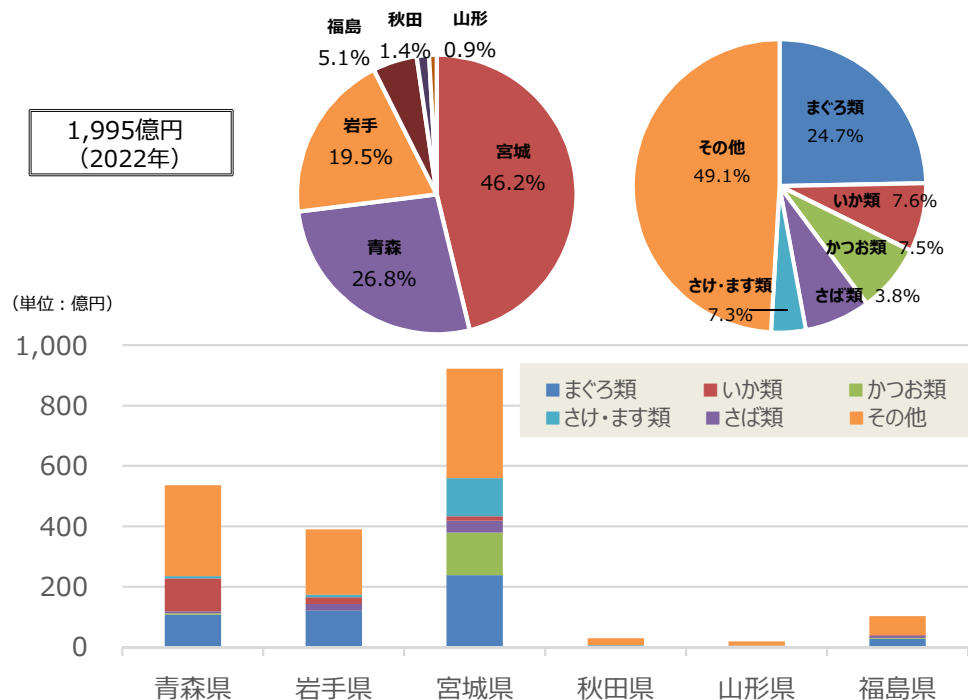
## (2) 農業産出額

～米どころの東北～



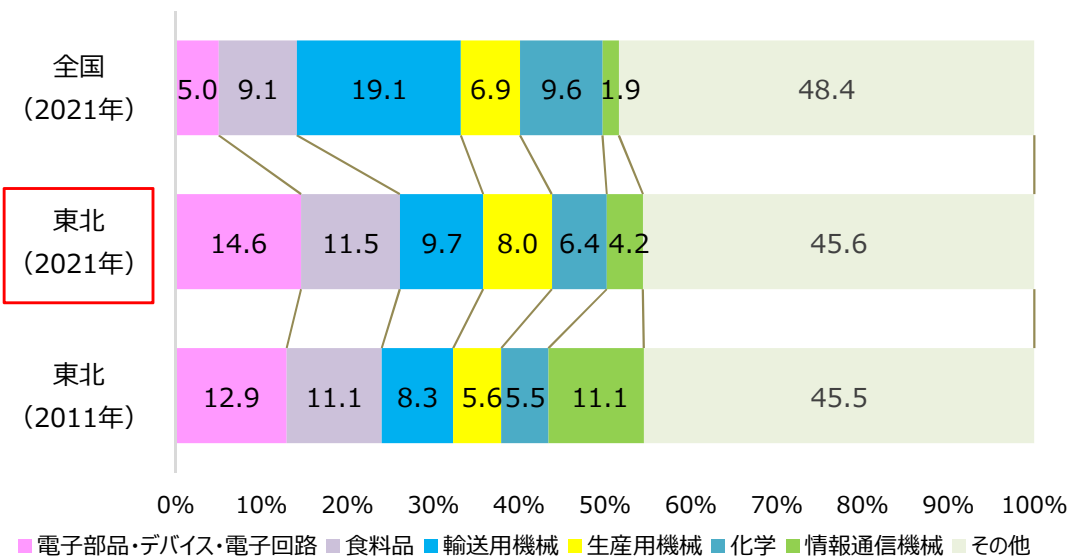
【出所】農林水産省

## (3) 海面漁業・養殖業産出額



【出所】農林水産省

## (4) 製造品出荷額等の業種別構成比



【出所】経済産業省

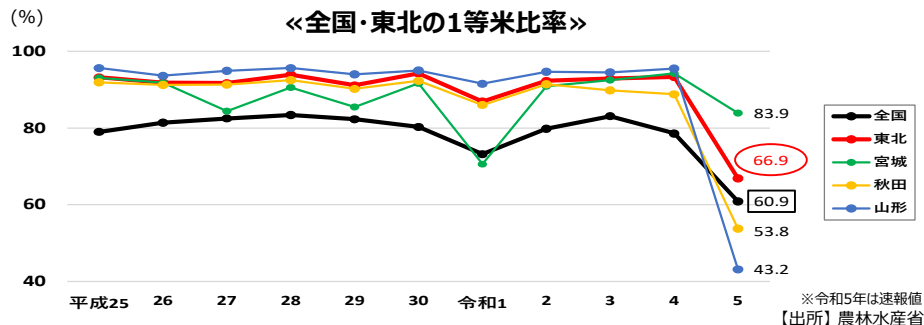
# I. 東北財務局管内経済構造

～気候変動による農林水産業への影響～

## 気候変動（猛暑・少雨等）による米の品質への影響

### （1等米比率の低下）

◆高温障害でコメの一部が白く濁るなどの症状が発生。  
令和5年産米の1等米の比率は過去10年で最低。



### （食味への影響）

◆「米の食味ランキング」において「特A」とされた東北の産地銘柄の数が減少。

令和4年産：9

令和5年産：7

### 「米の食味ランキング」

産地	品種名（地区）	令和4年産	令和5年産
青森	青天の霹靂（津軽）	特A	A
	はれわたり	-	特A
岩手	銀河のしずく（県中）	特A	特A
宮城	つや姫	特A	A
秋田	あきたこまち（県南）	A	特A
	ひとめぼれ（中央）	特A	A
山形	サキホコレ	-	特A
	つや姫（村山）	特A	特A
	つや姫（置賜）	特A	特A
	雪若丸（庄内）	特A	A
福島	雪若丸（置賜）	特A	特A
	コシヒカリ（会津）	特A	A

【日本穀物検定協会の資料を基に作成】

◎こうした中、**高温耐性品種**の青森県産「はれわたり」や秋田県産「サキホコレ」といった**新たなブランド米**が「特A」を獲得。

➤ 従来、米の品種開発は寒さに強く病気にかかりにくいことが重要視されてきたが、温暖化対策として、暑さにも強い品種の開発が求められている。

➤ また、気候変動への対策として各県では  
◇人工衛星からの画像を基に生育や作業適期を予測するなどにより**生産を支援するシステムの機能拡充や普及促進**  
◇**高温耐性のある品種の作付けを拡大**といった動きもみられている。

## 気候変動（猛暑など）による果樹収穫量の減少

◆2023年産**青森県産りんご**の収穫量は、「日焼け」の発生などにより、**前年比15%減**。

統計が残る1973年以降で3番目の少なさ。

### ～気候変動リスク軽減への取組～

◇青森県津軽地方の中南地域では近年、「もも」の生産が注目されている。

◇りんごの栽培技術を活かせるほか、昼夜の寒暖差が大きい**津軽平野の気候**が「もも」の栽培にとって**好条件**。

◇**他品目の導入により気象災害リスクを軽減**することが可能。

◇「津軽の桃」の**ブランド化**を図りながら生産の拡大を進めている。

◆今年の**山形県産さくらんぼ**の収穫量は、「双子果」の増加、収穫期の高温障害により**平年を下回る見込み**。

◇適応策として、短期的には**安定栽培技術の開発**、中長期的には**高温耐性等品種の開発**が検討されている。

## 海洋環境の変化（海水温上昇）による影響

### 岩手・宮城の海

◆**昨年**の秋サケ漁は前年比8～9割減の記録的不漁。  
◆今季は**ホヤ**が壊滅的な状況。

◇一方で、足下では夏にもかかわらず、秋の「戻りカツオ」に匹敵するほど**脂の乗ったカツオ**が連日水揚げ。

◇また、近年は暖水を好む**タイ類**（マダイ、チダイ）の水揚げが増加。

### 変化に対応する動き

- 暖水系の魚種の漁獲量が見通せず、加工に取り組むことが難しいといった課題。
- **複数の業者が協力**し既存の設備や販路を活用することで、新商品の開発にかかる**コスト等を削減**。
- 「チダイ」の**加工品開発**に取り組む動きもみられる。

### 福島

◇暖かい海域に多く生息する、**トラフグ、イセエビ**の漁獲量が増加。

なかでも、**相馬沖**で高級魚「**トラフグ**」の水揚げが急増。

### 地域活性化につなげる動き

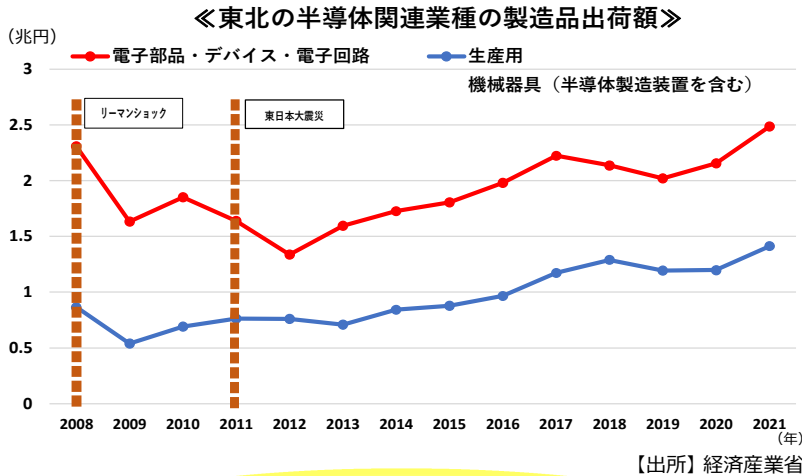
- 水揚げされたトラフグの名称を「**福とら**」と定め**ブランド化**。官民一体となり「福とら」の認知度向上に取り組んでいる。

# I. 東北財務局管内経済構造

～ SBIホールディングス(株)とPSMC (台湾) による半導体工場の建設 (宮城県大衡村) ～

## I. 東北地域の半導体関連産業の動向

半導体関連産業 (電子部品・デバイス・電子回路) は、リーマンショック、東日本大震災等の影響により大きく落ち込んだが、2021年には約2.5兆円と順調に回復。



◆ 社会全体のデジタル化の進展などによる需要の高まりなどを背景に、近年、東北地方における半導体産業の集積が一層進んでいる。

**日揮ホールディングス(株)**  
・子会社が新工場 (パワー半導体用窒化ケイ素基板等の生産) を建設。

**キオクシア岩手(株)**  
・第2製造棟を建設。AIや5G、自動運転等の技術に欠かせない半導体・3次元フラッシュメモリ等を生産。

**東京応化工業(株)**  
・郡山工場に半導体材料の品質検査等を行う検査棟及び新製造棟を建設。

**東京エレクトロン(株)**  
・プラズマエッチング装置など半導体製造装置の開発棟を建設。

(各社HPで公表されている時点の情報を基に当局作成)

## II. SBIホールディングス(株)とPSMC (台湾) による半導体工場の建設

◆ 東北地方への半導体産業の集積が進む中、2023年10月、新たな半導体工場が宮城県大衡村に進出することが決定。

◆ 地元では、新工場進出による、建設・住宅需要、個人消費の増加などをはじめとした、地域経済全体への好循環が期待されている。

### 【新工場の概要 (予定)】

- ・ **事業主体** : JSMCホールディングス(株) (SBIホールディングス(株)と台湾の半導体メーカー・PSMCが共同出資)
  - ・ **投資額** : 9千億円超
  - ・ **着工** : 2025年
  - ・ **操業時期** : 2027年 (31年にフル稼働)
  - ・ **生産品目** : 半導体ウェハ (産業機器、自動車向け 等)
  - ・ **生産能力** : 月間40,000枚 (フル稼働時)
  - ・ **雇用** : 31年以降は約1,200人 (台湾からの派遣含む)
- (新聞記事等の情報を基に当局作成)

☑ 宮城県や周辺自治体では担当部署の設置や関連企業の誘致等に係る予算措置、地元銀行では支援に向けた専門チームをつくるなど、受入準備が進んでいる。

☑ 2024年4月、半導体メーカーを中心とした民間団体「東北半導体・エレクトロニクスデザインコンソーシアム (T-Seeds)」が発足。

### 「産業界」

・生産性向上、投資拡大、研究開発

### 【人材育成・確保】

- ・魅力発信動画の配信
- ・企業等の出前講座
- ・インターンシップ 等

### 【サプライチェーン強靱化】

- ・企業間での交流
- ・企業ニーズのマッチング
- ・開発ニーズ/シーズのマッチング 等

半導体関連企業への就職希望者の増加

産業競争力の向上

### 「学術機関」

- ・先端的な研究開発
- ・半導体関連人材の輩出

### 「行政機関」

- ・補助事業など関連施策の展開

◆ 新工場の安定操業に向けて4項目を柱とする要望書を国に提出。

宮城県

◇ 半導体生産拠点の **安定的な操業** と関連産業の **集積促進**

◇ 地域の雇用環境に配慮した **人材の確保・育成**

◇ **道路・港湾・空港** の整備

◇ **海外半導体人材** の受入環境整備

市東北長会




◇ 工場周辺の **交通網の整備促進**、関連産業の受け皿となる **事業用地の確保** 等の支援を国に要望する特別決議を採択。

➤ 半導体関連拠点を結ぶ「シリコンコリドー (回廊)」の形成を掲げ、人材育成やサプライチェーンの強靱化を目指す。

【出所】 東北経済産業局 3

## Ⅱ. 最近の東北財務局管内の経済情勢

	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
<b>総括判断</b>	持ち直している	<b>持ち直している</b>	

<b>個人消費</b>	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	<b>回復に向けたテンポが緩やかになっている</b>	
<b>生産活動</b>	一進一退の状況にある	<b>緩やかに持ち直しつつある</b>	
<b>雇用情勢</b>	緩やかに持ち直している	<b>緩やかに持ち直している</b>	

※ 6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### 〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 【消費・旅行】

## 【消費】

- ① 小口・小分けの商品に需要がみられるなど、家庭での必要量に合わせた購買意識が高まっていると感じる。 (スーパー)
- ② 日々の支出を抑えながらイベント時の支出は惜しまないというメリハリ消費は次第に弱まり、節約志向が強く出ている。 (スーパー)
- ③ 物価高を受けて価格を気にしている様子がみられ、必要な物は買うが、嗜好品は抑えるといった動きも出ている。 (百貨店)
- ④ お客様には節約志向が根付いており、一回の購入金額を抑えているため、ついで買いをしてもらえない。 (コンビニエンスストア)
- ⑤ 電気料金などランニングコストに対する節約意識も強くなっていることから、節電効果の高い白物家電を中心に新製品に買い替える動きがみられる。 (家電量販店)
- ⑥ 物価高の影響もあって買い替えサイクルが長期化（購入意欲はあるがタイミングを先延ばし）する傾向がみられる。 (自動車販売)

## 【旅行】

- ⑦ 国内旅行者は、物価高の影響で近場、日帰りのニーズが高い。一方、インバウンドは、円安もあって増えている。 (業界団体)
- ⑧ 値上げしても宿泊控えはみられず、高価格なプランも好調。旅行に対しては、たまのぜいたくと考えている旅行者が多く、高価格でもこだわりを持って旅館を選ぶ傾向にある。 (観光協会)

## 【生産】

- ① 原材料や電気料金の上昇により収益が圧迫されている。 (電子部品・デバイス)
- ② OEM製品の値上げ交渉では当社希望の一部しか認められず、値上げ交渉の結果、生産打ち切りとした商品もある。 (食料品)
- ③ 下請け企業とコミュニケーションの機会を設け、値上げ要望等の吸い上げを行っており、要望があれば真摯に対応している。 (輸送用機械)
- ④ 前期までは電気料金や人件費の上昇分については価格転嫁を認めてもらうのが難しかったが、今期は業界全体として適正な価格転嫁を進める動きがみられる。 (輸送用機械)